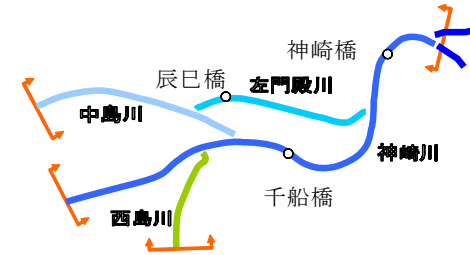


(2) 神崎川の整備目標

神崎川下流ブロック各河川において現状で掘削可能な河床高を、JR 東海道線下の基礎の高さおよび河口の沖合いを極力掘削しないこと、猪名川における河道整備との整合性、河床の安定性、局所的な土砂の堆積の軽減を考慮して設定しました。

猪名川における直轄事業による河川整備、神崎川加島上流の安威川ダムの整備により、神崎川は概ね 40 年に 1 度の洪水を安全に流すことができます。

このとき、神崎橋基準点の流量は概ね 3,400m³/s となります。



神崎川河口～猪名川合流点

中島川：河口～神崎川分派点

左門殿川：中島川合流点～神崎川分派点

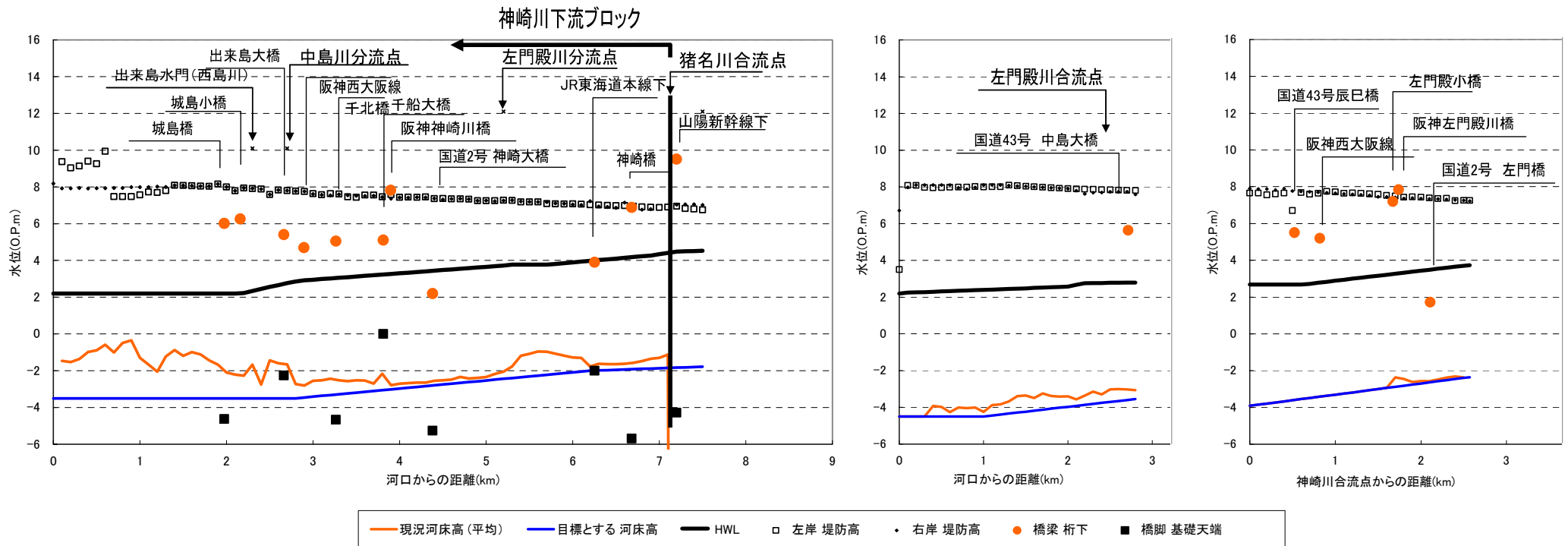
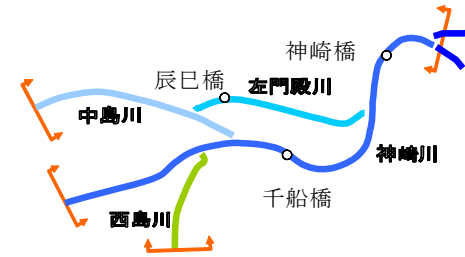


図-6.2 目標とする河床高

(3) 神崎川の治水安全度について

● 1/200、1/40 流量流下時の神崎川等の計算水位

- ・現況河道の状態において、1/200 の洪水が発生した場合、水位は HWL よりも高くなり、計画高潮発生と重なる場合には高潮被害が発生します。
- ・猪名川における河川整備および神崎川加島上流の河道掘削および安威川ダムの建設により、水位は大きいところで 2 m 程度低下します。
- ・その結果、神崎川橋地点の流量は 3,400m³/s となります。
- ・神崎川橋下流の神崎川、左門殿川、中島川において河道の掘削を行なうことにより、治水安全度は概ね 1/40 となります。



神崎川河口～猪名川合流点

中島川：河口～神崎川分派点

左門殿川：中島川合流点～神崎川分派点

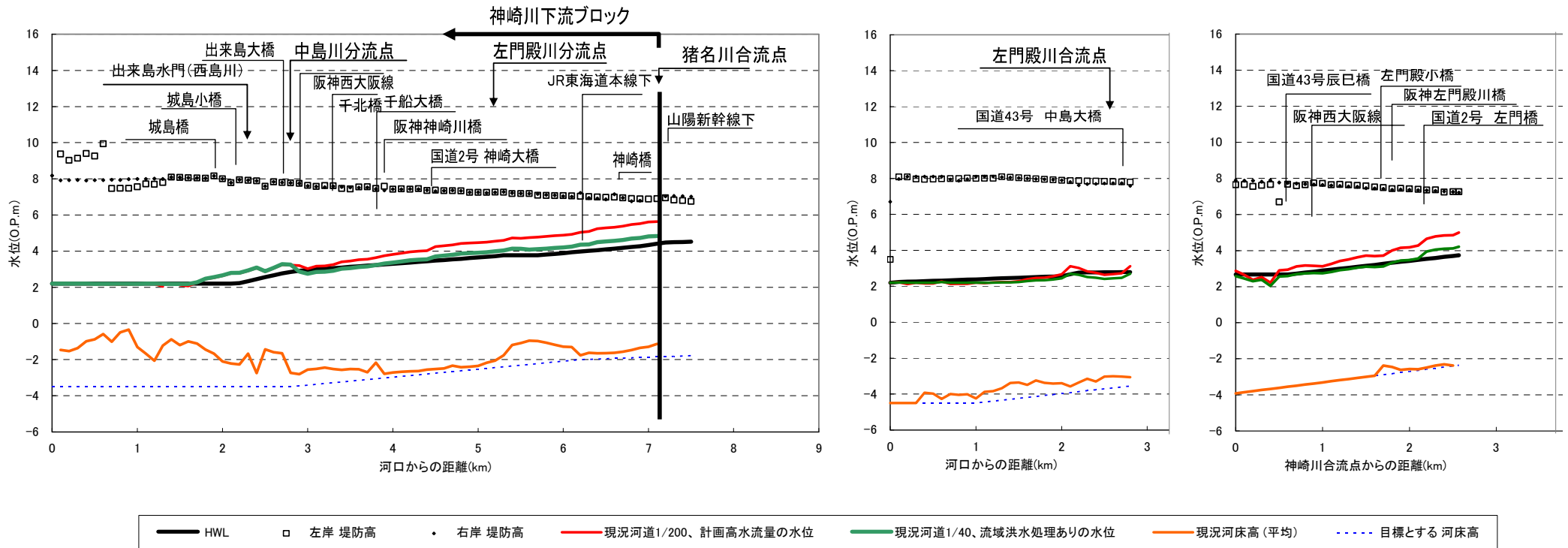


図-6.3 1/200、1/40 流量流下時の水位

(河川整備の実施に関する事項)

1. 河川工事の目的、種類及び施工の場所並びに当該河川工事の施工により設置される河川管理施設の機能の概要

神崎川の河川整備は、概ね 40 年に一度発生する規模の降雨による洪水を対象とし、計画対象区間において、現況河道の掘削、護岸・堤防の耐震補強、改修に当たっては、周辺の環境に配慮します。

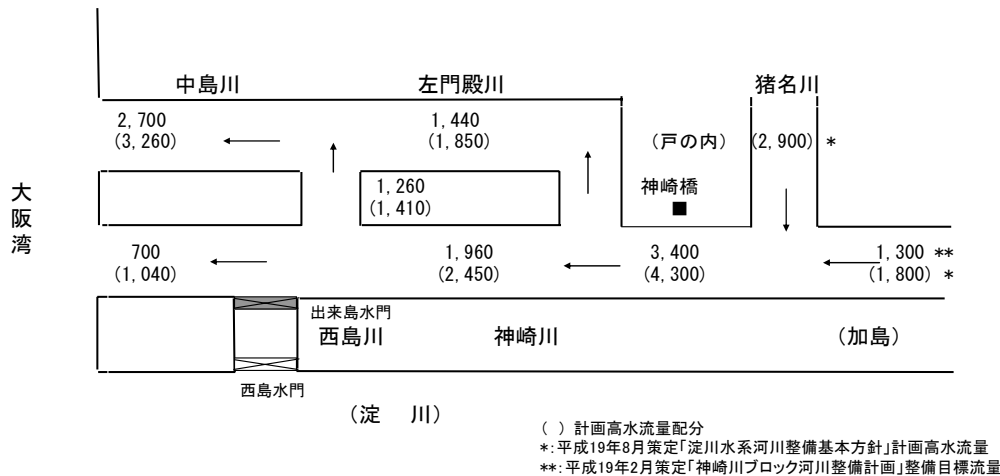
整備目標流量一覧表 (単位 m³/s)

河川名	基準点名	整備目標流量
神崎川	神崎橋	3,400

整備内容	河川	区間	概要
河床掘削	神崎川	神崎川河口～猪名川合流点	河床の掘削を行いません。実施に当たっては周囲への影響が小さくなるように配慮します。 橋脚基礎に影響を及ぼす範囲は掘削を避ける等施工による配慮を行いません。
	左門殿川	中島川合流点から1.64km～神崎川分派点	
耐震補強	神崎川	城島橋下流付近 約 0.5km	震度 6 強程度の直下型地震により被災した際にも、津波等による二次災害を生じさせない堤防高さを確保できる護岸・堤防等の耐震補強を実施します。 なお、平成 19 年 3 月「河川構造物の耐震性能照査指針(案)」が示されました。当ブロック河川護岸についても、より精度の高い点検、耐震補強の照査を行い、必要に応じて耐震対策事業を実施します。
	中島川	左門殿川合流点から 約 0.2km	

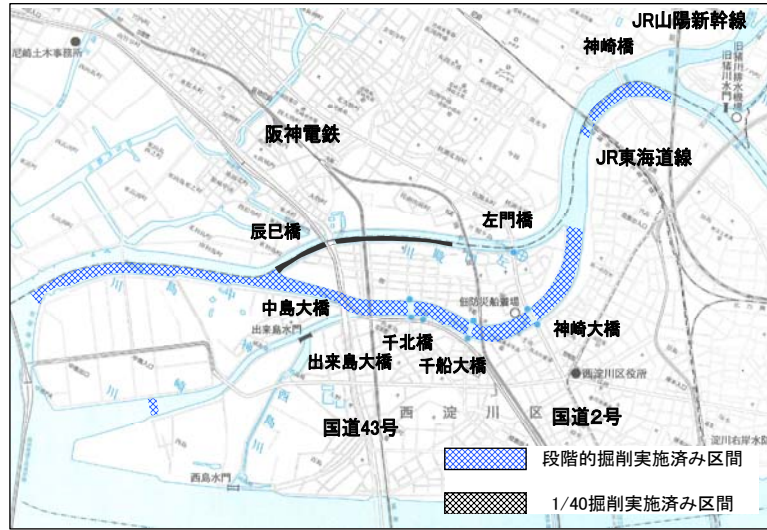
神崎川・中島川・左門殿川の計画諸元表

項目		
流域面積 km ²	市街地	227.31
	丘陵地	35.67
	水田	37.83
	山林	276.69
	水面	13.61
	合計	591.1
流路延長 km	神崎川	7.1
	左門殿川	2.82
	中島川	2.52
	西島川	1.49
計画対象雨量 (日雨量)	253mm/日 (H9 年全体計画)	
確率規模	1/40 年	
算定方法	Gumbel	
等価粗度	市街地	0.03
	丘陵地	0.30
	水田	2.00
	山地	1.00
	水面	0.00
	整備目標流量	基準点
	ピーク流量	3,400 m ³ /s
	ピーク決定波形	S28.9 (H9 年全体計画)
	比流量	5.75 m ³ /s/km ²
流出計算法	等価粗度法	



(1) 河床掘削

神崎川では治水安全度の向上を目指して河床掘削を行ないます。
 神崎川では整備期間内の目標を 40 年に 1 度として河床掘削を進めていきます。
 昭和 52 年以降定期的に土砂の浚渫を行ない、平成 9 年策定全体計画による 1/40 対応
 を目標にその後河床掘削を段階的に行なってきております。
 今後、整備期間内においては約 117 万 m³ の河床掘削を行ないます。

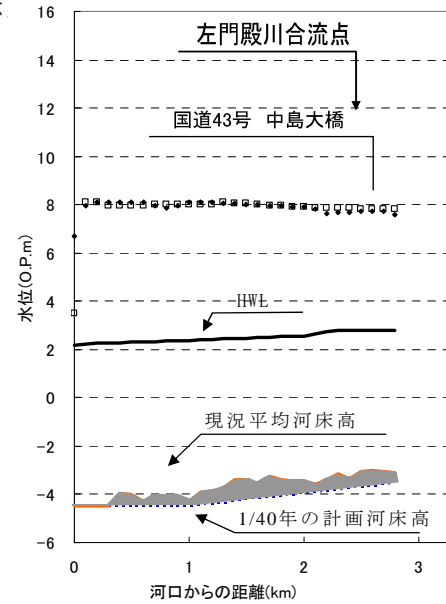


図・ 掘削実施区間 (平成 21 年 3 月時点)

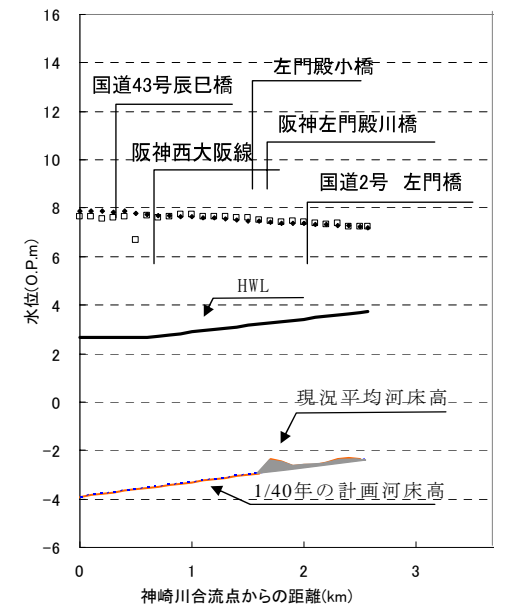


図・ 掘削対象区間

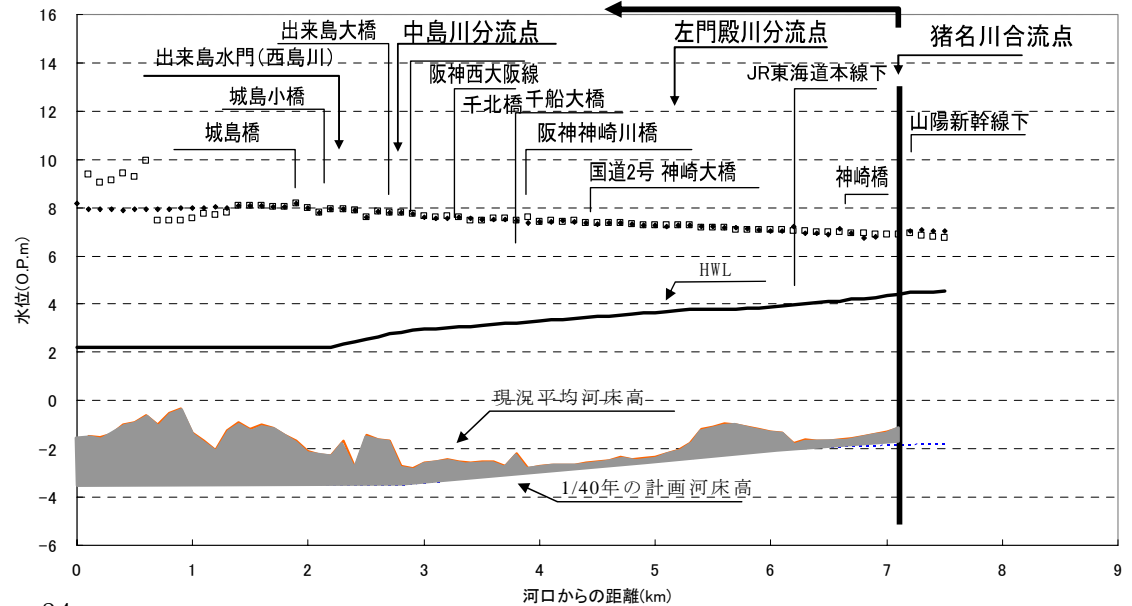
中島川 約 14 万 m³ の掘削



左門殿川 約 1 万 m³ の掘削

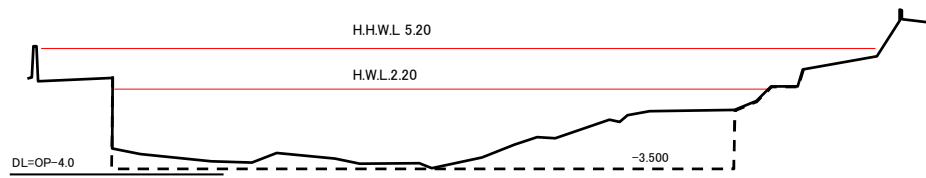


神崎川 約 102 万 m³ の掘削



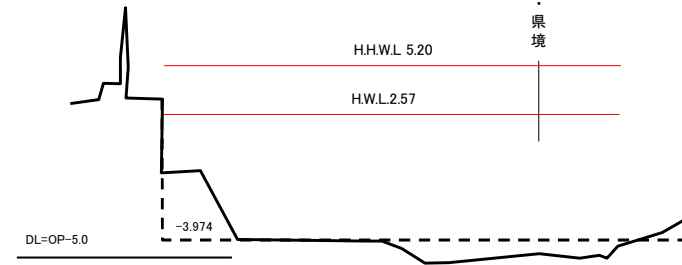
神崎川河床掘削横断面図

神崎川 河口～中島川分派点
NO.10

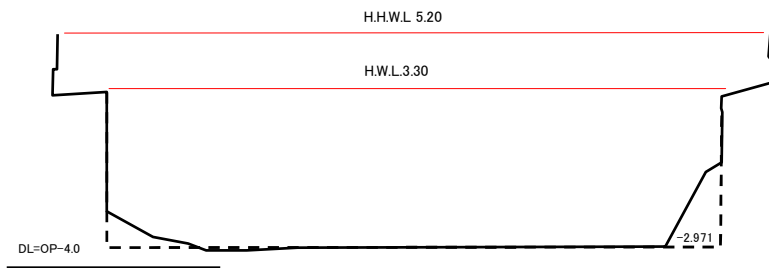


中島川

NO.20

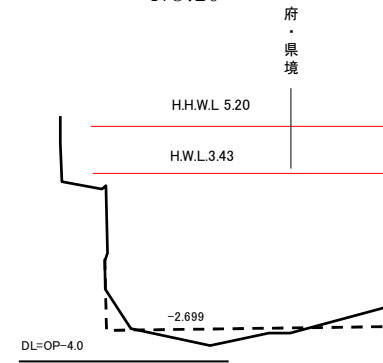


中島川分派点～左門殿川分派点
NO.40

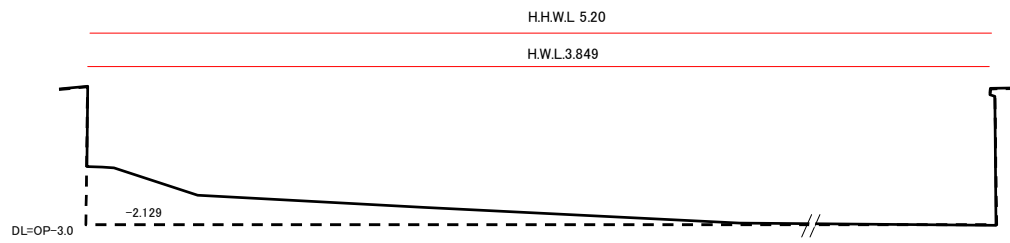


左門殿川

NO.20

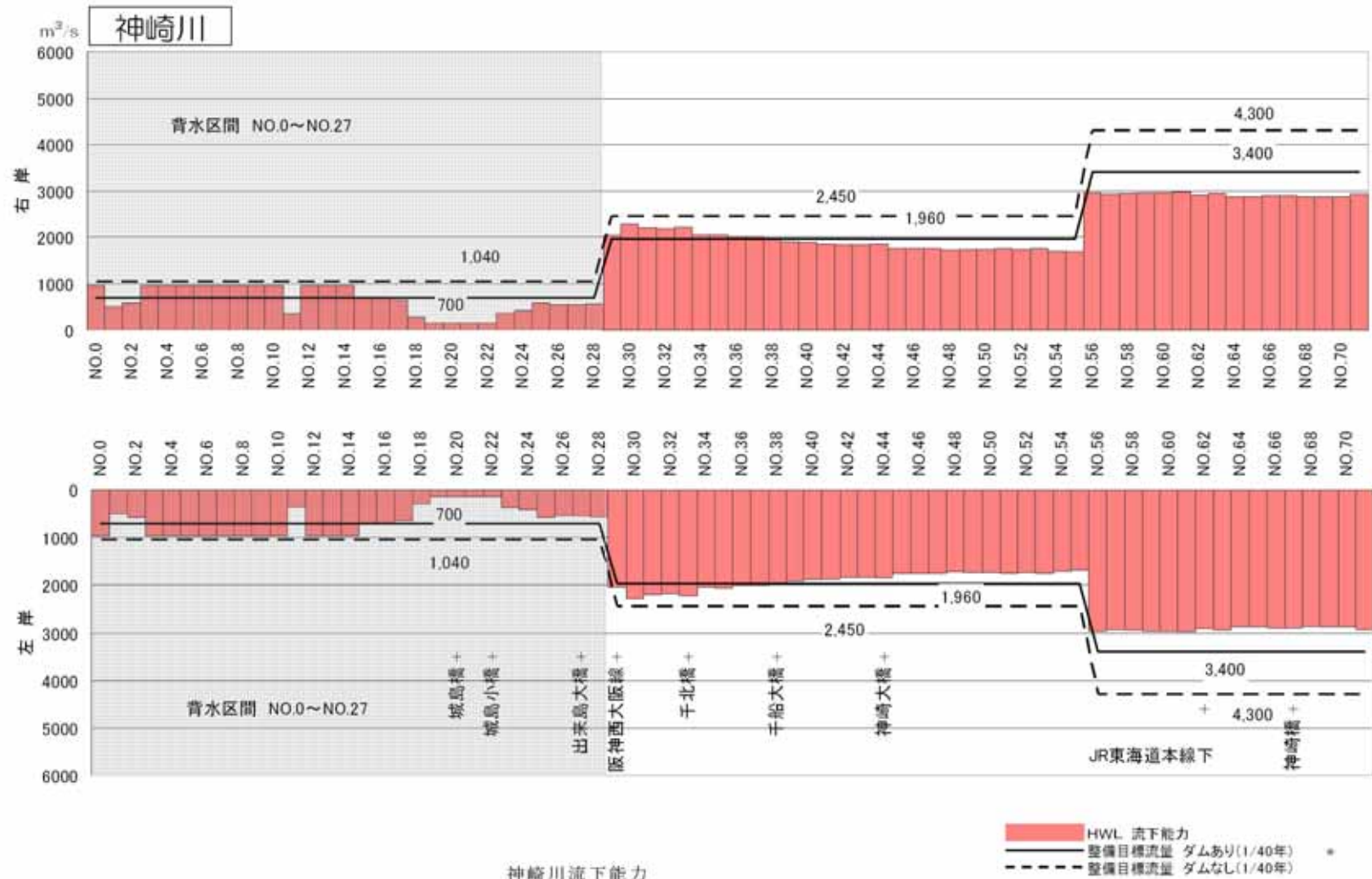


左門殿川分派点～猪名川合流点
NO.60

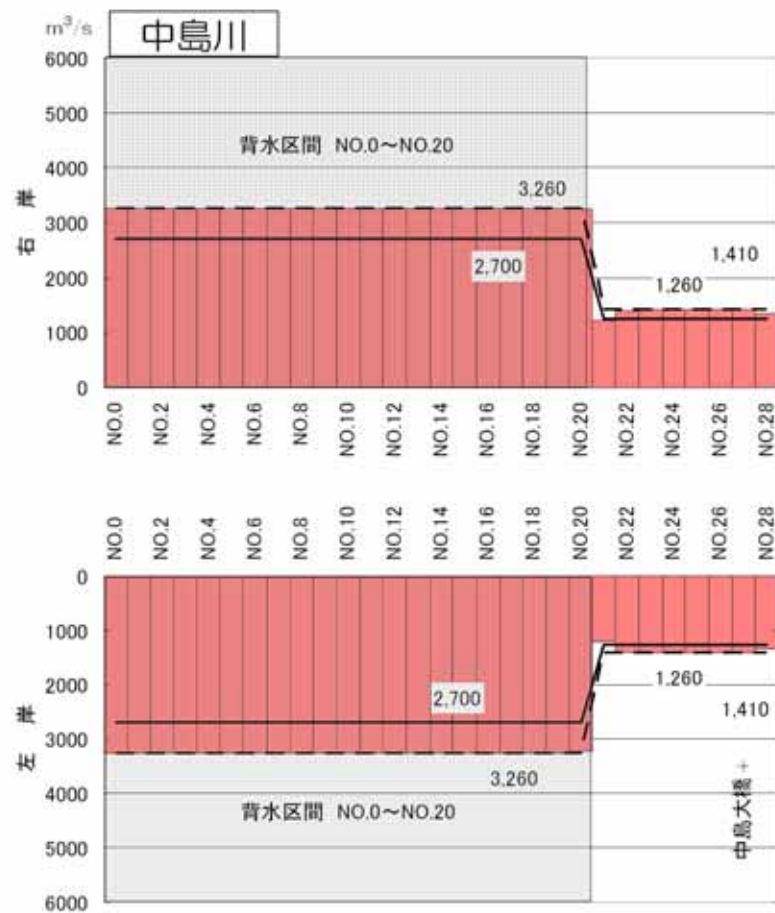


(縮尺 H=1:1,000,V=1:200)

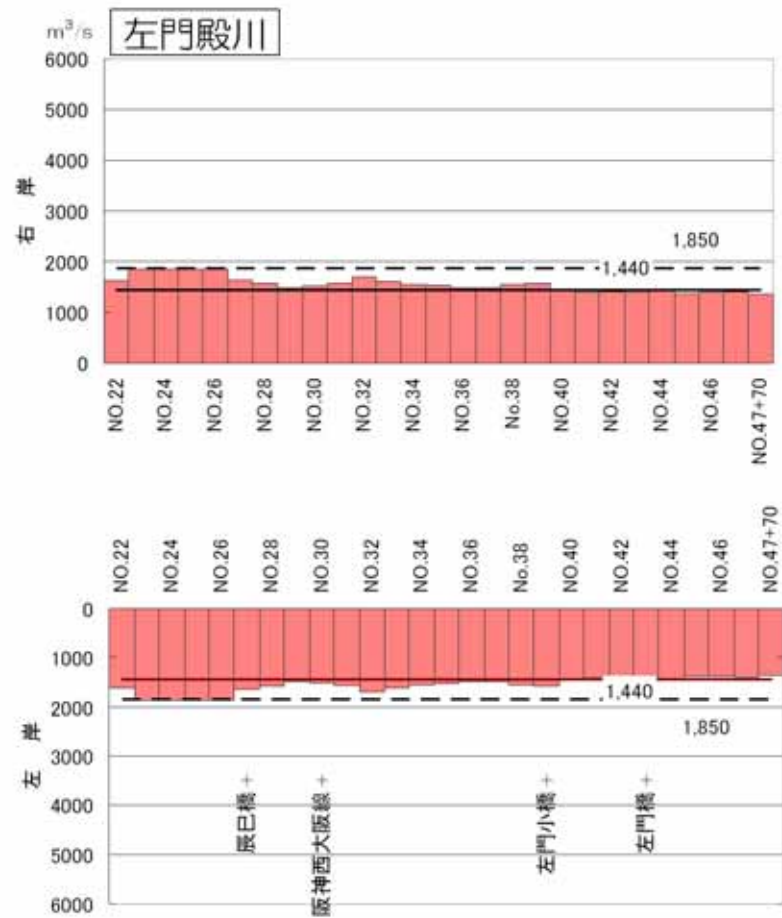
現況河床 ————
計画河床 - - - - -



(*: 一庫ダム、箕面川ダム、安威川ダム)



中島川流下能力



左門殿川流下能力

HWL 流下能力
 整備目標流量 ダムあり(1/40年) *
 整備目標流量 ダムなし(1/40年)

(*: 一庫ダム、箕面川ダム、安威川ダム)

(2) 耐震補強

震度6強程度の直下型地震により被災した際にも、津波等による二次災害を生じさせない堤防高さを確保できる護岸・堤防等の耐震補強を実施します。

当ブロックでは、神崎川城島橋下流の約0.5km、中島川国道43号中島橋下流の約0.2kmが対象です。

なお、平成19年3月「河川構造物の耐震性能照査指針(案)」が示されました。当ブロック河川護岸についても、より精度の高い点検、耐震補強の照査を行い、必要に応じて耐震対策事業を実施します。

